令和6年度 第4回向日市子ども・子育て会議

○日 時 令和7年2月17日(月) 午後3時～午後4時15分

○場 所 永守重信市民会館 2階 第2会議室

○出席者 (出席委員18人)

安藤和彦委員(会長)、池田和子委員、石村丈乃委員、稲野有亮委員、上田睦美委員、大川猛委員、海東紗代子委員、小篠由雅子委員、佐々木進委員、田中久美子委員、辻知也委員、津田陽委員、中川諒委員、船倉哲生委員、松田美佳委員、宮崎晃平委員、宮地健一委員、安場光弘委員

(50音順)

(事務局15人)

【市民サービス部】

柴田市民サービス部長、安田市民サービス部副部長、伊藤市民サービス部副部長、藤野健康推進課長、藪内健康推進課主幹、岩谷障がい者支援課長、紺野子ども家庭課長、大野子育て支援課長、訳合子育て支援課主幹、楠堂子育て支援係長、飯野子育て支援係副係長

【教育部】

水上教育部長、長谷川教育部副部長、浦元文教課長、上西学校教育課担当課長

○欠席者 (委員2人)

小林陽子委員、花安肇委員

(50音順)

○傍聴者 0人

○議 題 (1) 向日市こども計画の素案について

(2) その他

<議題1>パブリックコメントの結果及び向日市こども計画について

事務局	資料について説明
委員	(主な質疑・意見) 5つ目のパブリックコメントに対する市の考え方について、在園を問わず、こどもが4人いれば2子目以降の保育料を無料にしてほしいという要望かと思うが、「在園を問わず」ということに対して回答がなされていないように感じた。
事務局	現状、市の保育料は幼稚園または保育所に兄弟がいることが条件になっており、保育園や幼稚園など、どこにも所属していない場合は保育料の軽減措置の対象外となる。しかし、国、府の保育料の軽減措置もあり、一定所得以下であれば、こうしたケースであっても3人目以降が無償になる。

委員	5つ目の市の考え方について、子育て支援施策の検討は第2子以降の保育料の無償化の方向に検討するという事も含まれるのか。国の財政支援があればということなのか、市独自の支援を考えるのか。
事務局	まずは、国の財源で全国一律に負担を軽減してほしいということを市として要望する。ただし、国の制度であっても市の負担が生じるものが多いため、国が制度を設ければ、市も財政を負担して支援することになる。また、国の制度が行き渡っていないような場合は、周辺自治体の動向なども踏まえながら、市にとって最もふさわしい施策を考えていきたいという意図である。
委員	<p>変更事項の1点目について、「こどもが自分自身に」という文言を入れることによって、こども自身が主体者であることを、こども自身も、他の方にもわかってもらえらると思う。教科学習の中で子どもの権利条約について学んでいることが、権利条約の認知度が若者より小中学生の方が高いというアンケート結果にも表れており、これからは学校でしっかりと学んでほしいと思う。</p> <p>変更事項の2点目について、「義務教育の期間において」という文言が入って良かったが、「系統立てて一貫した包括的性教育に努めます」という表現であればもっと良かった。</p> <p>パブリックコメントに対する市の考え方の1つ目について、平等だけではなく、適切にというところをしっかりと考えて、要配慮者にサービスを行ってほしいと思った。また、3点目について、グラウンドだけでなく、体育館や教室なども、地域の人が使えらるような形で将来的に開かれていくと良いと思った。</p>
会長	子どもの権利条約が出た際に、京都府からもいろいろな発達段階別の絵本が出たり、高校の教員用の本に記載があつたりしているので、教育として行われていけば、権利条約の認知もより広がっていくのではないかと思う。それぞれの地域でこどもが読める権利条約の本を配備するなど、権利条約をこどもが知っている状況を作ることが大切だと思う。
委員	施設を地域に開く際には、ただ空間を与えるのではなく、受け入れたり繋いだりする人材が必要である。
委員	地域でこどもの育ちを支えるためには、学校教育だけでは難しく、社会教育で場を提供するだけでも難しい。学校運営協議会などもあるが、社会教育と学校教育をパートナー化するという考えがどこかに盛り込めないかと思う。
委員	計画の記載について、文章だけではなかなかスツと入ってこないという印象である。

委員	<p>ボリュームのあるアンケートを半数以上の方が回答していることから、興味・問題意識を持っている方は多い。わかりやすく提示することも一つの方法であり、また、このような冊子があっても見てもらえるかと思う。</p> <p>グラウンド開放について、学童の児童は管理上、学童に所属していない児童とは遊べないと聞いたことがあるため、そのような隔たりがなく、一緒に遊べたら良いと感じた。</p>
委員	<p>向日市は他から移り住んでいる方も多いため、移住先の判断材料として、向日市独自の施策やアピールできる取組などをホームページで発信できれば良いと思う。また、向日市で子育てをしている者にとっては、困りごとがあるときにどこに相談すれば良いのかがわかりづらいため、一元的に相談できる場所を、ホームページを活用してできれば良いと思う。</p>
委員	<p>地域の社会教育団体の中には、市の協力があれば、夏休みにこどものお世話ができてという団体もあるため、そういったところと連携しながら、こどもたちを支えていければ良いと思った。また、学校に相談したらこども会の行事で体育館を貸してくれたりもするので、そういう情報をお互い交換しながらやっていければ良いと思った。</p>
委員	<p>次回の計画改定の際には、できれば早めに取り組みたい。また、定量調査だけでなく、定性調査もやってほしい。</p>
委員	<p>アンケート結果の反映が曖昧なため、次回アンケートを取る際には聞き方や反映の仕方を考えてほしい。</p>
委員	<p>しんどいときに相談に乗ったり、行政や専門の方につないだりすることで、救われている方は多いと思う。現在はパパの支援に力を入れて取り組んでいる。地域子育て支援事業を行っている団体が、市民と行政とをつなげられるよう、来てもらいやすい環境作りに努めている。自分たちのできることをしていこうという、この計画を見てスタッフも頑張っていこうという気持ちになった。</p>
委員	<p>地域子育て支援拠点を作ったときは2歳児が中心であったが、今は産休中の0・1歳児が多い。継ぎ目のない支援のためには、孤立化しやすい0・1歳児の保護者への支援が重要であり、そこを担う地域子育て支援拠点の課題を考える必要があると思う。</p>
委員	<p>次期計画を作る際には、市の全体の予算に関する資料も出してほしい。市の財政のことも考えながら、どこに重点を置くのか考えていきたい。</p>